



「そのふくろをおさえておれ。」と云ったので、おさえた。  
 ぞして、ふくろへ三つばかり土をつめたら、たいぶ水がすくなくなつたので、  
 ほつとした。M ちやが、  
 「上の方へ見にいかなか。」と云ったので、見に行つたら、  
 「バリバリ」と音がした。見ていると、水がきたのにげると、はたのほ  
 うへ水がきた。おしうさんは、  
 「もうこりや、まにあねんぞ。」と云った。  
 ぞこへ、Y ちやほうのおいさんがきて、  
 「上があぶないぞ。」と云つた。  
 ほうほうのおいさんたちもいろいろもつとんで云つた。おしうさんだけはい  
 かなかつた。おしうさんは、煙へ水がはいらないようにしていた。でもぞ水は  
 だめだつた。煙へはいっぱい水がはいり、えんどうなどの野菜を、メチヤメチ  
 ヤにしってしまった。あにいさんは、水がいくすにはいらぬようにしていたが、  
 ぞれも水でみんなだめにしってしまった。こんど見ると、ぼくの家の上の  
 S ちやが全身どろだらけにしてしまった。どこへいくのかと思つたら、  
 Y ちやほうへたわらをもちにいって、あとの人たちは、みんなたわらもちに  
 いった。まもなく、S ちやたちが、たわらをもつてきた。S ちやが、ぼく  
 の家のうめの木のちよつと上へ行つた時だ。ゴバリバリバリという音が  
 きこえきたかと思つた。ぼくのせいの五倍も六倍もあるような、松川よりも  
 広いなみがびつとおしよせまきた。ぼくはもうだめかと思つて、家の中にいる

と、だれかが、

「早くにげる。」と、いつたので、あわててにげた。

ぼくのにげた時には、水がぼくのひざのきんじよまでになつていた。

ぼくはもうひっしでにげた。ぼくの家のおどろ畑へにげた時は、松川みたい

になつていた。S ちやほうのうしごやがながれていつた。それからもうきも

ののままでにげた。S ちやほうのうしごやがながれていつた。それからもうきも

ちやほうのうしごやがながれていつた。それからもうきも

んほうをだいてなきながらきた。S ちやほうの上の家のこやがえがんと、い

しがきからおちぞうになつていつた。そのうちに、S ちやほうのおじさんがは

こばれまきた。だれかにきいたら、

「牛をこやからつれたさつと思つた。だしていつた時、こやの屋根がつぶれてした

じきになつてしまつた。どして、どろがぐうつとかおの所へはいつてきて、い

きをとめていつた。おじさんはくるしくなつてきた。おじさんは足をゆすつてみ

たらうごいつたので、足をゆすればだれかが見つけにくれると思つてゆすつてい

た。どうしていつたの、足がゆすればだれかが見つけにくれると思つてゆすつてい

といつていつた。

「三回いきをしりまつたので、三回どろをのんでしまつた。四回のめばしぬ

ところだつた。どしてしにぞうなところをたすけてもらつた。」

(三十六年)